SGCライブラリ 113　4次元微分幾何学への招待
正誤表
2023年3月28日

1　第2章 p.22, 9行目

と表されると考えた．時空の点を 4 次元ベクトル~~を~~ で表す $\boldsymbol{X} = {}^t[t\ x\ y\ z]$ とすれば，

2　第3章 p.33, 図3.3
　キャプション2行目

図 3.3　ホモトピー k は，$\mathcal{S}(n,q)$ から $\psi_q(O(n)) = Gr_q(\mathbb{R}^n)$ への変位レトラクト．
~~右は簡略した図~~

3　第4章 p.41, 式(4.12)

$$|q_1 \cdot x \cdot q_2^{-1}|^2 = (q_1 \cdot x \cdot q_2^{-1})(\overline{q_1 \cdot x \cdot q_2^{-1}})^{\cancel{-1}} = |x|^2. \qquad (4.12)$$

削除

4　第5章 p.59,
　図5.6の下2行目

空間（図 5~~.1~~ 5）の連結和 $2\mathbb{R}P^2$ であり，2 つのメービウスの帯の境界を貼り合

5　第5章 p.62,
　下から3行目

定値形式の分類は，不定形式の場合と事情が大きく異なっている．階数が大き

6　第5章 p.69,
　図5.7の下の行

~~次~~ 上の図は，定理 5.10(A), (B) を満たす (τ, χ) を図示したものである．この

（反 → 削除）

7　第7章 p.94, 14行目　　率をもつ正定値の~~反~~自己双対アインシュタイン計量であるが，その不定値版と

8　第7章 p.95, 式(7.16)　　$$\tau[M] = \frac{1}{\cancel{16}\,12\pi^2}\int_M (|\mathcal{W}_+|^2 - |\mathcal{W}_-|^2)v_g \qquad (7.16)$$

9　第8章 p.106，8-9行目，14行目，19行目（3ヵ所）

（誤）ファイバーエルミート ⟶ （正）エルミートファイバー

10　第8章 p.107，11行目　　ラー計量~~を~~が存在することが知られている（[28] (Theorem 3.1)）.

以　上